

科目名	基礎科学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	授業形態	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室	
授業概要	生物学を学ぶために細胞から個体までの機能を学ぶ。 物理学:物理学の基礎は身体の動きを理解するための基礎として重要である。また、本講ではその二つの関連について学習していく。									
一般目標	生物現象の基本的な概念や原理・法則の理解を深めること、生物学的に探究する能力や態度を身に付ける。 力をベクトルや数値などで表すなど、力と動きの関係についての知識を習得する。									
テキスト 参考書等	テキスト:解剖生理学(医学書院)、姿勢と運動の力学がやさしくわかる本(ナツメ社) 参考書:視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録(数研出版)、好きになる免疫学(講談社)、よく分かる分子生物学の基本としくみ(秀和システム)、知っておきたい生物の基本ノート(生化学・分子生物学)(中経出版)、知っておきたい生物の基本ノート(細胞生物学・遺伝学)(中経出版)									

到達目標		
知識(認知領域) ・生物学の基本知識が説明できる。 ・授業で習得した知識をもとに、運動力学に関する作業・理学療法国家試験過去問題を解くことができる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・授業に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	生物の成り立ち(木田)	細胞のつくり・細胞内小器官を説明できる。
2	タンパク質の役割(木田)	アミノ酸とタンパク質の関係とその性質を理解できる。
3	エネルギー代謝(木田)	解糖系・クエン酸回路系・電子伝達系を理解して説明できる。
4	遺伝子としてのDNA(木田)	DNAの構造を説明できる。 染色体の構造を理解し、体細胞分裂と減数分裂の挙動を説明できる。
5	発生と生殖のしくみ(木田)	男性ホルモン・女性ホルモンを列名できる。 正常妊娠の経過を説明できる。
6	転写と翻訳(木田)	DNAからRNAへの転写、タンパク質合成に至る翻訳を含む遺伝情報の発現および調節を説明できる。
7	外部環境からの防御(1)(木田)	生体の非特異的防御機構を説明できる。 体液性免疫と細胞性免疫を説明できる。
8	外部環境からの防御(2)(木田)	アレルギーを説明できる。 体温調節のしくみを説明できる。
9	力と重心(東野)	重さと質量、力の単位、重心、ベクトルとスカラー、作用・反作用の法則の概念が説明できる。
10	床反力と身体運動(東野)	床反力と床反力作用点、支持基底面、床反力ベクトル、ベクトルの合成の概念が説明できる。
11	並進運動と運動の法則(東野)	並進運動と回転運動、速度と加速度、慣性の法則、運動の法則(第2法則)、重心の移動の概念が説明できる。
12	回転運動とモーメント(東野)	回転運動とモーメント、モーメントのつり合い、関節運動と関節モーメント、姿勢と関節モーメントの概念が説明できる。
13	エネルギーとパワー(東野)	仕事、力学的エネルギー、エネルギー保存の法則、パワーと仕事率、筋の収縮様式と関節パワーの概念が説明できる。
14	運動力学まとめ①(東野)	運動力学のポイントについてデータ測定を通してまとめることができるの概念が説明できる。
15	運動力学まとめ②(東野)	・運動力学のポイントについて資料を通してまとめることができる

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	木田 裕之、東野 幸夫		実務経験紹介	山口大学医学部にて生理学講義を17年間担当(木田)、作業療法士として臨床および教育経験を10年以上有する(東野)	

科目名	心理学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室	
授業概要	リハビリテーション医療に必要な心理学の基礎を学ぶ。									
一般目標	心理学のエッセンスを習得する。 本講義により学んだ心理学の知見を活かし、自らの専門領域において柔軟かつ積極的にかかわるような富んだ人間性を身に付ける。									
テキスト 参考書等	レジメを配布する(第1回のガイダンスで説明する「受講のきまり」を守ってください)。									

到達目標		
知識(認知領域) ・心理学の基礎知識が説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・適切な態度で受講できる。・授業に参加できる。・第1回のガイダンスで説明する「受講のきまり」を守ってください。		
回数	授業内容	授業目標
1	ガイダンス、心理学とは	心理学の概要について説明できる。
2	生涯発達心理学1	生涯発達における心理について説明できる。
3	生涯発達心理学2	生涯発達における心理について説明できる。
4	パーソナリティ1	パーソナリティについて説明できる。
5	パーソナリティ2	パーソナリティについて説明できる。
6	行動の成り立ち1	行動の成り立ちについて説明できる。
7	行動の成り立ち2	行動の成り立ちについて説明できる。
8	記憶1	記憶について説明できる。
9	記憶2	記憶について説明できる。
10	対人関係・コミュニケーション1	対人関係・コミュニケーションについて説明できる。
11	対人関係・コミュニケーション2	対人関係・コミュニケーションについて説明できる。
12	集団心理1	集団心理について説明できる。
13	集団心理2	集団心理について説明できる。
14	ストレスマネジメント1	ストレスマネジメントについて説明できる。
15	ストレスマネジメント2	ストレスマネジメントについて説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80～89点 良(2):70～79点 可(1):60～69点 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度			○	評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	嶋本 裕也		実務経験紹介	非常勤講師として心理学の講義を担当した経験あり。	

科目名	情報処理				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験		使用教室	パソコン室
授業概要	パソコンは現代人にとって必須機材であり、パソコンを使う能力は職業人として不可欠である。授業ではパソコンに関する基本的な知識と操作方法を学習する。								
一般目標	・パソコン及びWindowsの基礎知識と操作方法を修得する。 ・利用技術としての文書処理(Word)、表計算処理(Excel)、プレゼンテーション資料(PowerPoint)作成方法を修得する。								
テキスト 参考書等	30時間でマスターOffice2021(実教出版)								

到達目標		
知識(認知領域)		
・文書処理(Word)、表計算処理(Excel)、プレゼンテーション資料(PowerPoint)作成ができる。		
技術(精神運動領域)		
・文書処理(Word)、表計算処理(Excel)、プレゼンテーション資料(PowerPoint)作成ができる。		
態度(情意領域)		
・授業に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	パソコンとWindowsの基礎知識と操作	パソコンを利用する際に必要となる入出力機器、アプリケーションの起動・終了に関する知識 パソコンの主流OSである Windowsの基礎知識と操作
2	文字入力および日本語変換機能の基本操作	各種文字入力方法とMS－IMEを使った日本語変換機能
3	文書作成の基礎 ①	WORDを使った文章の作成と書式設定をする
4	文書作成の基礎 ②	WORDを使って文章の編集および文中に表を作成し編集する
5	文書作成の基礎 ③	WORDを使ってビジュアルな文書を作成する
6	表計算処理の基礎 ①	EXCELの基本機能とデータ入力方法を理解する
7	表計算処理の基礎 ②	EXCELのデータ編集方法を理解する
8	表計算処理におけるグラフ作成	EXCELのグラフの種類と作成機能を理解する
9	表計算処理における関数利用 ①	EXCELの基本的な関数機能を理解する
10	表計算処理における関数利用 ②	EXCELの応用関数機能を理解する
11	表計算処理における関数利用 ③	EXCELの応用関数機能を理解する
12	表計算処理における応用機能	EXCELの並べ替え、フィルターなど便利な機能を理解する
13	プレゼンテーション資料の作成基礎 ①	POWERPOINTの使い方を理解する
14	プレゼンテーション資料の作成基礎 ②	POWERPOINTの付加機能の使い方を理解する
15	プレゼンテーション資料の作成基礎 ③	POWERPOINTの使いプレゼン資料を作成する

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品	○			20	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	()内はGPA点数
出席				欠格条件	
担当教員	河本 隆		実務経験紹介	非常勤講師として情報処理の講義を担当した経験あり。	

科目名	日本語表現法					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室	
授業概要	学生生活や社会においてコミュニケーション能力は重要であることから、本講義では、学内におけるレポートや小論文作成時の表現手法や、社会人で必要となる様々な表現スキルについて演習を交えて学ぶ。									
一般目標	日本語の表現方法における言葉の基準やマナーを身につけ、様々なフォーマットで適切に日本語による表現を行うことができる。									
テキスト 参考書等	・なし ※随時プリントを配布します。									

到達目標		
知識(認知領域) ・日本語の表現方法における言葉選びの基準やマナーを身につけることができる。		
技術(精神運動領域) ・小論文・レポート・お礼状などを日本語表現の規範に沿って作成することができる。		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション 授業の目的と「言葉」使用の重要性を説明	・言葉使用の重要性を説明することができる。
2	コミュニケーションと言語・言葉選びの基準 「話し言葉」と「書き言葉」	・言葉選びの基準を説明できる。 ・言葉選びの基準を用いてコミュニケーションが行える。 ・「話し言葉」と「書き言葉」の留意点についてそれぞれ説明することができる。
3	書く時のルール 書き言葉で書く・文末表現の統一	・文末表現を統一して書くことができる。 ・作文の書き方ルールを覚え、実際に書くことができる。
4	ねじれ文と敬語表現	・主語・述語が一致した文が書けるようになる ・敬語表現について復習し、ソーシャルスキルを身につける
5	作文の書き方～メモから書き方まで「3点法」	・作文の書き方についてポイントを説明することができる。 ・3点法を用いて書くことができる。
6	原稿用紙の使い方・レポート用紙の使い方	・原稿用紙およびレポート用紙の使い方を理解し、実際に書くことができる。
7	演習	・テーマに合わせ、作文を書き、自分で添削する。
8	小論文の書き方	・小論文の書き方におけるポイントを説明することができる。 ・書き方のポイントに留意して小論文を作成することができる。
9	主観と客観が理解できる 根拠の必要性	・演習により、主観と客観について理解し、文で表現することができる。(主観的書き方から客観的な書き方へ) ・根拠の必要性を知り、自分の意見に対する明確な根拠を示すことができるようになる。
10	演習	・テーマに関する自分の意見を導き出し、それに対する根拠をまとめる
11	演習	・小論文を書く
12	レポートの書き方	・レポートの書き方におけるポイントを説明することができる。 ・書き方のポイントに留意してレポートを作成することができる。
13	ビジネス文書の書き方	・ビジネス文書について理解し、実際に書けるようになる
14	お礼状の書き方	・お礼状の書き方を知り、実際に書けるようになる
15	最近の日本語(問題課題) 類義語について	・最近の日本語(問題課題)について知る。 ・言い換えができるようになる(類義語が多い日本語)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	()内はGPA点数
出席			○	欠格条件	
担当教員	久賀 菜穂子		実務経験紹介	本校教員として日本語表現法の講義を担当した経験あり。	

科目名	英語					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	205・206教室
授業概要	病院で使われる特殊な表現及び、日常生活の様々な場面を想定して実生活に役立つ表現を学ぶ。									
一般目標	英語の聴き取り能力や表現能力を養い、そして国際語(英語)による総合的なコミュニケーション能力を高めることを目標とする。 1. Native speaker の表現を理解できる。 2. 医療の場面での簡単な英会話を理解できる。									
テキスト 参考書等	PT・OTが書いたリハビリテーション英会話(メジカルビュー)									

到達目標		
知識(認知領域) ・日常生活または医療現場での基本的な会話ができる。		
技術(精神運動領域) ・日常生活または医療現場での基本的な会話ができる。		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	初回の挨拶をしよう	自己紹介の表現、相手が困っていることを聞く表現ができる
2	痛む部位を聞いてみよう 痛みの種類や程度を聞いてみよう	痛みの場所・種類・程度を聞く表現ができる
3	痛みの経過を聞いてみよう 基本的な肢位を指示してみよう	痛みの出現の仕方・悪化の表現ができる 各肢位の表現、患者の位置を微調整する表現ができる
4	応用的な肢位を指示してみよう バイタルサインを確認しよう	各肢位・真似してもらったときの表現ができる 体調を聞く表現ができる
5	自動可動域を測定してみよう 他動可動域を測定してみよう	最大可動域を測定するための表現、可動域制限の原因を聞く表現ができる 相手にリラックスしてもらう表現、角度結果を伝える表現ができる
6	体幹の可動域を測定してみよう 頭部の可動域を測定してみよう	前後側・側屈・回旋の表現ができる 首の前後屈・側屈・回旋の表現ができる
7	筋力を測定してみよう 触覚検査をしてみよう	抵抗をかけるときの表現ができる 感覚をたずねる表現ができる
8	バランス検査をしてみよう 歩行評価をしてみよう	片脚立位・タンデム・不安定・転ぶの表現ができる さまざまな歩行の表現ができる
9	ホームエクササイズを指導してみよう RICE処置を指導してみよう	運動回数や頻度の表現ができる RICE処置、炎症に関連する表現ができる
10	移乗動作の練習をしてみよう 食事の評価と指導をしてみよう	移乗時の動作・介助の表現ができる 食事の一連の動作表現ができる
11	適切な歩行補助具を選択してみよう 自宅のトイレを改修してみよう	患者の状態を確認する、2つのうちどちらか1つを選ぶ表現ができる ～したことがありますかの表現、さまざまな福祉用具の表現ができる
12	退院後の生活指導をしてみよう ADL表現について	火事に関する表現、心配事を聞く表現、ADL表現ができる
13	コラム①	生活に関するいろいろな表現ができる
14	コラム②	生活に関するいろいろな表現ができる
15	リハビリテーション英会話まとめ	期末試験に備えて重要ポイントを復習し、理解できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	()内はGPA点数
出席			○	欠格条件	
担当教員	岡野 智子		実務経験紹介	英語講師として英語教室や小学校等で指導に携わる	

科目名	医療倫理学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	今日医療者がなぜ倫理を求められているかを理解した上で、医療倫理の基本的な視点、概念、さまざまな倫理課題について学習する。とりわけ病者の思考や行動様式を社会・文化的視点あるいは生活者の視点から理解し、医療者と病者・その家族の関係のあり方、そこに見いだされる倫理的課題について検討する。								
一般目標	臨床において倫理的判断が求められる場面で、患者・利用者やその家族、他の専門職等と共同して適切な判断ができるようになる。								
テキスト 参考書等	使用しない。参考文献は授業中に提示する。								

到達目標		
知識(認知領域) インフォーム・ドコンセントをはじめとする倫理的判断の前提となる知識を修得する。		
技術(精神運動領域) 臨床課題に対して、適切な倫理的判断ができるようになる。		
態度(情意領域) 多様な背景や考え方をもち人々と意見を調整することができる。 授業に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション:医療倫理とはいかなる分野か?	医療倫理とはどのような分野か、医療専門職およびその医療行為になぜ倫理が求められるかを説明できる。
2	ディスカッション:脳死と臓器移植	臓器移植について、自分がドナー、レシピエント、その家族等の立場になった場合どのように考えて判断するかを表明できる。
3	臓器移植法と倫理	日本における臓器移植法とその改訂の意味および課題を説明でき、そのことについての自分の意見を述べられる。
4	患者の自己決定権とインフォームド・コンセント	患者の自己決定権とインフォーム・ドコンセントの定義や条件について説明できる。
5	文化摩擦としての輸血拒否	患者の自己決定権とインフォーム・ドコンセントの課題について説明し自分の意見を表明できる。
6	解剖実習にみる西洋医学・医療の思想	西洋医学的視点や論理の特殊性について説明できる。
7	文化と医療:国際保健と文化摩擦	文化と医療の関係について説明できる。
8	文化と医療:病気とは何か?	文化と医療の関係について説明できる。
9	サファリングとケアリング	サファリングについて説明できる。
10	病むことの語り	医療と語り(ナラティブ)の関係について説明できる。患者・利用者が病むことをどのように考え、どのように判断を導き出すか、医療専門職の場合と対比しつつ説明できる。
11	生活者と医療専門職が出会うところ	臨床現場で患者・利用者と医療専門職の間でどのような思考・判断の調整が行われているかを説明できる。
12	超高齢社会と保健・医療	少子高齢化が患者・利用者と医療専門職の関係にどのような変化をもたらしつつあるかを説明できる。
13	作られた健康、創り出す健康	くらしの現場のケアについて説明できる。
14	事例検討	これまで学んだ視点や方法を踏まえて、具体的な臨床課題について課題の再設定と解決の方向性を検討できる。
15	総括・振り返り	医療倫理で学修したことを振り返り確認し、学習することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80～89点 良(2):70～79点 可(1):60～69点 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート		○		評価なし	
授業態度			○	評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習		○	○	評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	星野 晋		実務経験紹介		

科目名	ソーシャルスキル論					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	無	使用教室	205・206教室	
授業概要	対人援助職であるOT・PTを目指す学生にとって必要な、コミュニケーション(自己基盤力、人間関係力、対人支援力)について学ぶ。各テーマについて個人ワーク、グループワークを通して考える中で、気づきや思いを言語化することにより理解を深める。									
一般目標	①人間関係を作る上で必要な社会性について学び、自分の課題が言語化できる。②演習や、グループでの話し合いなどの関わり合いを通じて、自己理解を深める。 ③社会人に求められる意識や行動について、各演習で体験的に学ぶことで、社会人基礎力(3つの能力)を実践的に理解する。 ④様々な状況に応じたコミュニケーションスキルについて学び、自分も他人も大切にしたい自己表現を意識して使えるようになる。									
テキスト 参考書等	授業の内容に合わせて資料を配布する。									

到達目標		
知識(認知領域) ・授業を通して、ビジネスマナーやコミュニケーションの重要性について認識し、自分の特徴(強み・課題)を把握し、説明できる。		
技術(精神運動領域) ・グループワークを通してコミュニケーションの取り方や話し合いの進め方を身につけ、自分の意見を言葉にして発表できる。		
態度(情意領域) ・社会人として必要な姿勢や考え方に基づいた態度・行動がとれる。		
回数	授業内容	授業目標
1	学生から社会人へ	・学生と社会人との違いを多面的に捉えることができる。グループで話し合った内容を整理し、説明できる。
2	社会人に求められるマナーと行動	・社会人として求められるビジネスマナーについて、ルールと比較して具体的行動レベルで説明できる。
3	社会人基礎力とは	・経済産業省が提唱する社会人として求められる能力について理解できる。自分の今後の課題について考えることができる。
4	自己理解①	・自己認知と他者認知との違いに触れ、「解放された窓」を広げる ・集団の中の個人の多面性について理解できる
5	印象の科学	・人が印象を作り出す要素を理解し、好感を与える挨拶や身だしなみ、お辞儀のポイントを習得する。
6	受容・傾聴・共感的理解	・相手の話を聴く基本的態度(受容・傾聴・共感的理解)について理解し、傾聴技法について説明できる。
7	アサーティブコミュニケーション	・アサーティブコミュニケーションの意味を理解し、自身の自己主張の傾向について説明できる。 ・アサーティブコミュニケーションを活用し、断る場合の3つのポイントを説明できる。
8	自己理解②	・交流分析により、人間関係を築く上で重要となる自己のタイプを認識することができる。
9	実践的コミュニケーション①	・第二印象(耳からの情報)がコミュニケーション及ぼす影響について理解できる。 ・社会人にふさわしい言葉遣いとして、尊敬語・謙譲語・丁寧語の違いを説明できる。
10	実践的コミュニケーション②	・社会人にふさわしい言葉遣いを活用して、電話応対の基本的な受け方・掛け方ができる。
11	傾聴トレーニング①	・傾聴に適した姿勢や表情、距離、視線について学び、理解する。 ・演習で傾聴を体験し理解を深める。
12	傾聴トレーニング②	・傾聴の6つの技法について学び、ロールプレイによる実践トレーニングでスキルを習得する。
13	インターネット、SNSの正しい利用方法	・コミュニケーションの重要ツールになっている携帯電話やインターネットの安全な利用方法について認識を深める。 ・総務省や警察庁が警鐘している闇バイト防止活動について理解し、安全な暮らしに役立てることができる。
14	ジェネレーションギャップについて考える	・多様な世代と共に働く職場で生じるジェネレーションギャップの理解と対応方法を習得する
15	トラブル対応と社会常識	・学校や職場で対人関係などのトラブルが起きた際に、冷静に判断し対応ができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	怒和 陽子		実務経験紹介	電気通信事業で約10年、営業事務として勤務。退職後、キャリアコンサルタントの資格取得。個別カウンセリング、高校生向けセミナーを多数実施。若者サポートステーションでは就労経験のない若年層を中心に就職活動支援を行う。	

科目名	解剖学Ⅰ					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	205・206教室
授業概要	医療の対象であるヒトを理解するためには、人体の構造と機能の学習がその第一歩となる。この講義では、人体を構成する組織と細胞、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、免疫系、及びヒトの発生学について学ぶ。									
一般目標	人体の構造と機能、およびヒトの発生に関する知識を修得する。									
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 「人体の構造と機能」(医学書院)									

到達目標		
知識(認知領域) ・人体の構造と機能、及びヒトの発生について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・積極的に授業に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	形態学総論(解剖学とは、細胞について)	解剖学とは何かを学び、細胞の構造と機能について説明できる。
2	体をつくる組織 (四大組織:上皮・支持組織・筋・神経)	四大組織:上皮・支持組織・筋・神経の構造、特徴について説明できる。
3	内臓学総論(体の仕組みと働き)	人体を構成する器官系について、各器官の位置関係、形状、人体での役割を説明できる。
4	消化器1(口とその周辺、咽頭、食道)	口とその周辺、咽頭、食道の構造、機能について説明できる。
5	消化器2(胃と腸について)	胃と腸の各器官の構造、機能について説明できる。
6	消化器3(肝臓、胆嚢、膵臓)	肝臓、胆嚢、膵臓の、各器官の構造、機能について説明できる。
7	循環器1(心臓について)	心臓の構造と機能について説明できる。
8	循環器2(血管の構造、動脈系、静脈系)	血管(動脈系、静脈系)の構造と機能について説明できる。
9	呼吸器(鼻、咽頭・喉頭、気管・気管支、肺)	鼻、咽頭・喉頭、気管・気管支、肺の構造と機能について説明できる。
10	内分泌(下垂体、甲状腺、松果体、副甲状腺、ラ氏島、副腎など)	下垂体、甲状腺、松果体、副甲状腺、ラ氏島、副腎の構造と機能について説明できる。
11	泌尿器(腎臓、尿管、膀胱、尿道)	腎臓、尿管、膀胱、尿道について、構造と機能について説明できる。
12	男性生殖器(生殖器の発生、精巣、精管、精嚢、前立腺など)	生殖器の発生、精巣、精管、精嚢、前立腺について、構造と機能について説明できる。
13	女性生殖器 (卵巣、卵管、子宮)	卵巣、卵管、子宮の構造と機能について説明できる。
14	免疫系(白血球、リンパ節、胸腺、脾臓、扁桃など)	白血球、リンパ節、胸腺、脾臓、扁桃の構造と機能について説明できる。
15	発生 (受精、着床、胎児発生ほか)	卵細胞と受精、着床と胎盤、胎児発生のしくみについて説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度	○			評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	中村 教泰、中村 純奈、他		実務経験紹介	大学医学部教授として解剖学講義を担当している。	

科目名	解剖学Ⅱ					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	205・206教室
授業概要	解剖学Ⅱでは、形態学的側面から脳、脊髄、末梢神経系を学ぶ。 感覚器(目、耳、皮膚、鼻、舌)で感知した内部及び外部環境の変化情報を神経系が処理して、効果器(筋・器官、腺など)の適切な反応を生み出す機構を学ぶが、認知・学習・記憶などのいわゆる「高次機能」についても学ぶ。									
一般目標	脳各部位の構造と機能を統合的に理解し、関連する知識を修得する。 脳神経と脊髄神経について、構造と機能を統合的に理解し、関連する知識を修得する。 人体の生命システムにおける感覚器系と末梢神経系の役割に関する知識を修得する。									
テキスト 参考書等	絵で見る脳と神経(医学書院)、解剖生理学(医学書院)									

到達目標		
知識(認知領域) ・授業で取り上げた中枢神経系、末梢神経系および関連する疾患について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・積極的に授業に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	神経系の概要:脳室・脳脊髄液、脳髄膜、発生・細胞分化	中枢神経系の細胞・組織学的要素について説明できる。 個体発生における肉眼的な脳の形態形成について説明ができる。 脳膜と脳脊髄液の流れについて説明できる。
2	脊髄と末梢神経系	脊髄の構造、機能と伝導路を説明できる。 感覚神経と運動神経について説明できる。 自律神経系について説明できる。
3	外部環境の情報入力系1 :体性感覚伝導路	体性感覚の分類を記述できる。 体性感覚系の伝導路と中継核を記述できる。 大脳皮質の体性感覚野の機能区分を説明できる。
4	外部環境の情報入力系2 :視覚伝導路	網膜の構造とその機能を記述できる。 網膜を構成する細胞をあげそのはたらきを説明できる。 視覚伝導路を記述できる。
5	外部環境の情報入力系3 :聴覚・平衡覚伝導路	外耳、中耳、内耳の構造について説明できる。 前庭器の構造が説明できる。 聴覚、平衡覚の中枢経路の概略が説明できる。
6	外部環境の情報入力系4 :嗅覚伝導路・味覚伝導路	鼻腔の構造と嗅粘膜の組織構成、1次嗅覚系の構造的・機能的特性、嗅球の構造について説明できる。 舌の構造と味蕾の組織構成、1次味覚系の構造的・機能的特性について説明できる。 中枢の嗅覚路、味覚路の概略が説明できる。
7	内部環境情報の入出力系 :自律神経系・内臓感覚入力	自律神経の働きと役割を臓器ごとに概説できる。 自律神経系の中枢性調節機序について説明できる。
8	脳神経系1	脳神経の名称を挙げ、解剖学的位置を説明できる。 脳神経の入出力の中枢内の起始と終末領域を整理して挙げることができる。 動眼神経、外転神経、滑車神経、三叉神経の入出力に関する情報を整理して説明できる。
9	脳神経系2	顔面神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経の入出力に関する情報を整理して説明できる。 脳神経麻痺について説明できる。
10	小脳	小脳の機能および解剖学的区分が説明できる。 苔状線維系と登上線維系に基づき小脳の細胞構築を説明できる。 小脳系が作るループ、小脳系と錐体外路系の関係について説明できる。
11	大脳基底核	大脳基底核系を構成する要素を説明できる。 大脳基底核系の主なループ、大脳基底核系と錐体外路系の関わりについて説明できる。 大脳基底核と小脳系の障害に関連する運動障害について概略が説明できる
12	運動系の階層構造 :いわゆる錐体路・錐体外路系	いわゆる錐体路系といわゆる錐体外路系を混乱なく説明できる。 運動系の階層の中で大脳基底核と小脳系の位置付けを説明できる。 運動の中枢領域と階層性について説明ができる。
13	視床下部	視床下部の構造と機能を自律機能と関連づけて概説できる。 体温調節、摂食行動、飲水行動の調節メカニズムを説明できる。 性行動、内分泌調整における視床下部の役割を説明できる。
14	大脳辺縁系	大脳辺縁系の構造と機能を自律機能や高次機能と関連づけて概説できる。 情動における扁桃核の役割、記憶における海馬の役割について説明できる。 脳内報酬系について説明できる
15	大脳皮質と高次機能	大脳皮質の構造と機能局在を説明できる。 記憶の成立過程、短期記憶と長期記憶の性質について述べることができる。 言語中枢の機能、言語障害について説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価無し	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価無し	良(2):70～79点
授業態度				評価無し	可(1):60～69点
発表・作品				評価無し	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価無し	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	小西 博之		実務経験紹介	国立大学医学部で解剖学を30年教えている。	

科目名	解剖学ⅢA					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	3階基礎医学実習室	
授業概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり、医学の基礎である。本講義では、運動器系の基礎となる骨と関節について、講義や小グループによる演習を行って学習する。									
一般目標	①骨の名称や部位名など骨に関する基礎知識を習得する。また、各骨の構造の特徴など基本的構造について知識を習得する。 ②頭部、四肢、体幹に存在する関節の名称と構造の概要について知識を習得する。									
テキスト 参考書等	教科書：プロメテウス解剖学 コア アトラス 最新版（医学書院）/PTOT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 最新版（南江堂） 参考書：解剖学講義 南山堂、系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①（医学書院）									

到達目標		
知識(認知領域) ・骨の構造、名称、部位名称、特徴を覚えることができる。また、骨模型を模写できる。 ・関節の構造、名称を覚えることができる。		
技術(精神運動領域) ・骨模型を使用して、名称、部位名称を説明できる。		
態度(情意領域) ・授業に意欲的に参加できる。 ・課題(指定された骨をスケッチブックに模写する)を完成し、提出できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	解剖学総論	骨解剖を学ぶにあたり基礎的な医学的用語を理解し説明できる。
2	骨学総論(骨格系)	骨の構造や発生について総論的に理解し説明できる。
3	全身骨格	骨格全体の成り立ちを把握するとともに、個々の骨の名称や数を説明できる。
4	骨と関節1(鎖骨・肩甲骨)	鎖骨、肩甲骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
5	骨と関節2(上腕骨)	上腕骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
6	骨と関節3(尺骨・橈骨)	尺骨・橈骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
7	骨と関節4(手の骨)	手部の骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
8	骨と関節5(胸骨・肋骨)	胸骨・肋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
9	骨と関節6(頭蓋骨)	頭蓋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
10	骨と関節7(寛骨)	寛骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
11	骨と関節8(大腿骨・膝蓋骨)	大腿骨・膝蓋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
12	骨と関節9(脛骨・腓骨)	脛骨・腓骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
13	骨と関節10(足の骨)	足部の骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
14	骨と関節11(椎骨・仙骨・尾骨)	椎骨・仙骨・尾骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。
15	まとめ	骨解剖学(総論、上肢、下肢)について復習し、各部位を説明できる。また、課題を完成させることができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品		○		評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	()内はGPA点数
出席			○	欠格条件	
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	病院・介護施設での勤務において骨・関節疾患の治療に携わった経験がある。	

科目名	解剖学ⅢB					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室	
授業概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり医学の基礎となっている。本講義では、運動器系の基本となる筋について学習する。									
一般目標	①骨格筋の一般的な構造と機能についての知識を習得する。 ②人体の主要な骨格筋について、その構造(起始・停止、走行、神経支配など)を知り、その作用についての知識を習得する。									
テキスト 参考書等	教科書:プロメテウス解剖学 コアアトラス 最新版(医学書院)/PTOT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 最新版(南江堂) 参考書:解剖学講義(南山堂)/系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院)									

到達目標		
知識(認知領域) ・筋:筋の名称、起始、停止、作用、神経支配を覚え、筋模型で説明できる。 ・筋の構造上の特徴を覚え、説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。 ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	筋学総論、運動方向の名称	・筋組織の種類や特徴、骨格筋の基本的構造について説明することができる。 ・骨格筋の生理的作用や筋による運動方向などの基本的作用について説明できる。
2	肘関節に作用する筋	・肘関節周囲の各筋の名称や構造について説明することができる。
3	肩甲上腕関節の筋	・肩甲上腕関節周囲の各筋の名称や構造について説明することができる。
4	上肢帯の筋	・上肢帯の各筋の名称や構造について説明することができる。
5	手外在筋①	・手外在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。
6	手外在筋②	・手外在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。
7	手内在筋	・手内在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。
8	内・外寛骨筋	・内・外寛骨筋の各筋の名称や構造について説明することができる。
9	深層外旋六筋	・深層外旋六筋について各筋の名称と構造について説明することができる。
10	大腿前面の筋	・大腿前面の各筋の名称や構造について説明することができる。
11	大腿後面、内側の筋	・大腿後面、内側の各筋の名称や構造について説明することができる。
12	下腿前面、外側面の筋	・下腿前面、外側面の各筋の名称や構造について説明することができる。
13	下腿後面の筋	・下腿後面の各筋の名称や構造について説明することができる。
14	足底、背部、腹部の筋	・足部、背部、腹部の各筋の名称や構造について説明することができる。
15	顔、頸部の筋	・顔、頸部の各筋の名称や構造について説明することが出来る。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也		実務経験紹介	病院勤務において、筋の治療に携わった経験あり	

科目名	解剖学ⅢC					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	治療室
授業概要	医療の対象であるヒトを理解するためには、人体の構造と機能の学習がその第一歩となる。この実習では、以下を目標に学習する。									
一般目標	①評価・治療の指標となる骨を正確に触察できる技術を習得する。 ②筋を正確に触察できる技術を習得する。									
テキスト 参考書等	【教科書】機能解剖学的触診技術 第2版 上肢／下肢・体幹（メジカルビュー社） 【参考書】基礎運動学(医学書院) プロメテウス解剖学 コア アトラス 第4版 医学書院									

到達目標		
知識(認知領域)		
①筋:筋の名称、起始、停止、作用、神経支配・走行を覚え、筋模型で説明できる。		
②筋の構造上の特徴を覚え、説明できる。		
技術(精神運動領域)		
①筋の走行を正確に触診することが出来る。		
②患者に不快感を与えない触り方が出来る。		
態度(情意領域)		
・授業に積極的に参加することができる。		
・患者に不快感を与えない立ち居振る舞いが出来る。		
回数	授業内容	授業目標
1	触察:オリエンテーション	あらゆる運動機能系評価の基礎となる骨・筋の触診について、その概要・意義を理解することができる。
2	触察:上肢の骨	上肢骨のランドマークを触診することができる。
3	触察:上肢帯の筋	上肢帯の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
4	触察:上肢の筋	上肢の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
5	触察:前腕の筋	前腕の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
6	触察:手指の筋	手指の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
7	触察:頸部の筋	頸部の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
8	触察:下肢の骨・靱帯	下肢骨のランドマーク、靱帯を触診することができる。
9	触察:骨盤帯の筋	骨盤帯の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
10	触察:大腿の筋	大腿の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
11	触察:足部の骨	足部の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
12	触察:下腿の筋	下腿の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
13	触察:体幹の筋	体幹の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。
14	触察:まとめ	実技試験に備え上肢の筋について復習し、理解を深めることができる。
15	触察:まとめ	実技試験に備え下肢の筋について復習し、理解を深めることができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也		実務経験紹介	病院勤務において、筋の治療に携わった経験あり	

科目名	運動学Ⅰ					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT/OT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室	
授業概要	解剖学・生理学を基礎として、関節運動に関わる身体の構造や、上肢・頸部・顔面・胸部の関節運動が起こるメカニズムについて学ぶ。									
一般目標	上肢・頸部・顔面・胸部の関節運動について説明でき、そのメカニズムについての知識を身につける。									
テキスト 参考書等	基礎運動学 第6版 中村隆一 著(医歯薬出版) 運動学テキスト 改訂第2版(南江堂)									

到達目標		
知識(認知領域) 各関節の構造の特徴と機能について説明できる。 各関節運動の主動作筋、補助動作筋、拮抗筋を列挙できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に出席し、主体的に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	肩関節の機能と構造①	肩関節の構造と機能について説明できる。 肩関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
2	肩関節の機能と構造②	肩関節の構造と機能について説明できる。 肩関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
3	肩関節の機能と構造③	肩関節の構造と機能について説明できる。 肩関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
4	肘関節の機能と構造①	肘関節の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
5	肘関節の機能と構造②	肘関節の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
6	肘関節の機能と構造③	肘関節の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
7	手関節・手指の機能と構造①	手関節・手指の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
8	手関節・手指の機能と構造②	手関節・手指の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
9	手関節・手指の機能と構造③	手関節・手指の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靱帯で説明できる。
10	頸椎の機能と構造①	頸椎の構造と機能について説明できる。 頸椎の動きが筋や靱帯で説明できる。
11	頸椎の機能と構造②	頸椎の構造と機能について説明できる。 頸椎の動きが筋や靱帯で説明できる。
12	顔面の機能①	顔面の構造と機能について説明できる。 表情や咀嚼が筋や靱帯で説明できる。
13	顔面の機能②	顔面の構造と機能について説明できる。 表情や咀嚼が筋や靱帯で説明できる。
14	胸部の機能と構造①	胸部の構造が理解できる。 胸部の動きが筋や靱帯で説明できる。 呼吸運動について説明できる。
15	胸部の機能と構造② まとめ	胸部の構造が理解できる。 胸部の動きが筋や靱帯で説明できる。 呼吸運動について説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80～89点 良(2):70～79点 可(1):60～69点 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士として臨床・教育経験を有する	

科目名	運動学Ⅱ					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	無	使用教室	205・206教室	
授業概要	解剖学・生理学を基礎として、関節運動に関わる身体の構造や、関節運動が起こるメカニズムについて体幹・下肢関節・歩行の知識を習得する。									
一般目標	体幹・下肢の関節運動について説明でき、正常歩行の特徴についての知識を身に付けることができる。									
テキスト 参考書等	・基礎運動学(医歯薬出版) ・運動学テキスト(南江堂)									

到達目標		
知識(認知領域) ①各関節の構造の特徴と機能について説明できる。 ②各関節運動の主動作筋、補助動作筋、拮抗筋を列挙できる。 ③各関節運動のメカニズムを説明できる。 ④正常歩行に関する用語を正しく使用し、歩行運動を説明できる。 技術(精神運動領域) なし 態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	股関節の運動 ①構造と機能	・骨盤環・仙腸関節・股関節の構造と機能について説明できる。
2	股関節の運動 ②筋の働き	・関節運動に関する用語について説明できる。 ・股関節運動に作用する筋について説明できる。
3	股関節の運動 ③運動メカニズム	・股関節運動の骨運動と関節運動について説明できる。
4	膝関節の運動 ①構造と機能	・膝関節の構造と機能について説明できる。
5	膝関節の運動 ②筋の働き	・膝関節運動に作用する筋について説明できる。
6	膝関節の運動 ③運動メカニズム	・膝関節運動の骨運動と関節運動について説明できる。
7	足関節の運動 ①構造と機能	・足関節の構造と機能について説明できる。
8	足関節の運動 ②筋の働き	・足関節運動に作用する筋について説明できる。
9	足関節の運動 ③運動メカニズム	・足関節運動の骨運動と関節運動について説明できる。
10	下部体幹の運動 ①構造と機能	・下部体幹(胸椎・腰椎)の構造と機能について説明できる。
11	下部体幹の運動 ②筋の働き	・下部体幹(胸椎・腰椎)運動に作用する筋について説明できる。
12	歩行の運動学 ①基本用語の確認	・歩行に関する基本用語について説明できる。 ・歩行周期について説明できる。
13	歩行の運動学 ②関節運動と重心移動	・歩行中の下肢関節運動について説明できる。 ・歩行中の重心移動・床反力について説明できる。
14	歩行の運動学 ③筋活動	・歩行中の筋活動について説明できる。
15	まとめ	・確認テストを通して下肢・下部体幹・歩行の運動学の基本についてまとめることができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士としての臨床経験および教育経験を10年以上有している	

科目名	生理学ⅠA					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室	
授業概要	人の体では、酸素や栄養物を全身に運び、逆に二酸化炭素や老廃物を取り除いている。これには、肺などの呼吸器、心臓や血管など循環器および血液が重要な役割を果たしている。この授業では、呼吸器系と循環器系の臓器の構造と機能と血液の働きを学習する。									
一般目標	・呼吸器系の構造、機能、病態に関する知識を修得する。 ・血液の組成と機能に関する知識を修得する。 ・循環器系の構造、機能、病態に関する知識を修得する。									
テキスト 参考書等	生体のしくみ 標準テキスト 最新版 医学映像教育センター 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院)									

到達目標		
知識(認知領域) 授業で取り上げた臓器の構造と機能について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・なし		
回数	授業内容	授業目標
1	血液の循環と心臓の構造 (乾)	・体内の血液循環を簡単に説明できる。 ・心臓の構造を簡単に説明できる。 ・胎児循環を簡単に説明できる。
2	心臓の収縮と血液の拍出 (乾)	・血流量や心周期を簡単に説明できる。 ・心室の働きと前負荷、後負荷、収縮性の関係を簡単に説明できる。 ・心筋収縮・弛緩のメカニズムを簡単に説明できる。
3	血管の構造と働き (乾)	・主な血管の走行を説明できる。 ・血管の構造と働きを簡単に説明できる。
4	血圧 リンパ系 (乾)	・血圧の基本事項や各部位の血圧の変化を説明できる。 ・血圧の測定法を説明できる。 ・リンパ系の構造と働きを簡単に説明できる。
5	血液循環の調節(1) (乾)	・血液循環の神経性調節を簡単に説明できる。 ・血液循環の液性調節を簡単に説明できる。
6	血液循環の調節(2) (乾)	・微小循環の調節を簡単に説明できる。 ・各部位での血流の状態を簡単に説明できる。 ・運動時の循環調節を簡単に説明できる。
7	心臓の興奮とその伝播 (乾)	・心筋細胞の電気興奮(活動電位)を簡単に説明できる。 ・心臓の電気興奮の伝播を簡単に説明できる。
8	心電図 (乾)	・心臓の電気活動を簡単に説明できる。 ・心電図の記録と意味を簡単に説明できる。
9	循環器系の病態生理 (乾)	・浮腫を簡単に説明できる。 ・起立性低血圧症を簡単に説明できる。 ・心不全を簡単に説明できる
10	呼吸器の構造と仕組み (宮本教授)	・上気道の構造と仕組みを簡単に説明できる。 ・下気道と肺の構造と仕組みを簡単に説明できる。 ・胸膜・縦隔の構造を簡単に説明できる。
11	ガス交換とガス運搬 (宮本教授)	・ガス交換について簡単に説明できる。 ・ガス運搬について簡単に説明できる。 ・換気と血流について簡単に説明できる。
12	呼吸機能と検査 (宮本教授)	・呼吸器運動の調節について簡単に説明できる。 ・呼吸気量について簡単に説明できる。 ・呼吸器系の病態生理について簡単に説明できる。
13	血液の組成と機能/赤血球 (宮本教授)	・血液の組成と機能について簡単に説明できる。 ・赤血球の構造と機能について簡単に説明できる。 ・血液型について簡単に説明できる。
14	白血球の働き/血液凝固 (宮本教授)	・白血球の種類と機能について簡単に説明できる。 ・血液凝固と線維素溶解について簡単に説明できる。
15	リンパ球と免疫 (宮本教授)	・リンパ球の種類と機能について簡単に説明できる。 ・免疫とその異常について簡単に説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数

担当教員	乾 誠、宮本 達雄	実務経験紹介	大学医学部教授として約22年間、基礎医学講座で教育、研究に従事(乾)。
------	-----------	--------	-------------------------------------

科目名	生理学ⅠB					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室	
授業概要	植物性機能として、消化と吸収、腎臓と排泄、内分泌、性と生殖を学ぶ。これらは健康維持や疾患の理解に重要であり、基礎的な知識の習得を期待する。									
一般目標	・栄養の消化と吸収に関する知識を修得する。 ・体液の調節と尿の生成に関する知識を修得する。 ・内臓機能の調節、生殖の仕組みに関する知識を修得する。									
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院)									

到達目標		
知識(認知領域) 授業で取り上げた臓器の構造と機能について説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 積極的に授業に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	消化・吸収（宮本教授）	・消化・吸収について簡潔に説明できる。
2	消化液の分泌（宮本教授）	・消化液の分泌について簡潔に説明できる。
3	消化管運動（宮本教授）	・消化管運動について簡潔に説明できる。
4	腎臓・ネフロン（宮本教授）	・腎臓・ネフロンの機能について簡潔に説明できる。
5	尿生成・腎機能（宮本教授）	・尿生成・腎機能について簡潔に説明できる。
6	尿成分・排尿（宮本教授）	・尿成分・排尿について簡潔に説明できる。
7	酸-塩基平衡（宮本教授）	・酸-塩基平衡について簡潔に説明できる。
8	内分泌・ホルモン作用様式（美津島教授）	・内分泌・ホルモン作用様式について簡潔に説明できる。
9	視床下部-下垂体系（美津島教授）	・視床下部-下垂体系の機能について簡潔に説明できる。
10	甲状腺・カルシウム代謝（美津島教授）	・甲状腺・カルシウム代謝について簡潔に説明できる。
11	膵臓・糖尿病（美津島教授）	・膵臓の機能と糖尿病について簡潔に説明できる。
12	副腎皮質・副腎髄質（美津島教授）	・副腎皮質・副腎髄質の機能について簡潔に説明できる。
13	精巣・卵巣（美津島教授）	・精巣・卵巣の機能について簡潔に説明できる。
14	男性の生殖機能（美津島教授）	・男性の生殖機能について簡潔に説明できる。
15	女性の生殖機能（美津島教授）	・男性女性の生殖機能について簡潔に説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	美津島 大、宮本 達雄		実務経験紹介	大学医学部教授として生理学の講義を担当している。	

科目名	生理学Ⅱ				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	人の脳は身体内外の環境変化を受入れ、それに対処するために種々の生理的反応や適応的、さらには創造的な行動をひき起こす。これらの生体機能がどのようにして調節されているかを理解するために、神経系の基本的な働きとさらに高次な働きについて学習する。								
一般目標	神経生理学の基本知識を習得する。 生体における神経系の役割を理解する。								
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院)								

到達目標		
知識(認知領域) 教科書をベースに神経系の重要事項について説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	生理学とホメオスタシス	生体の恒常性維持について説明できる。
2	電気信号による伝達	静止膜電位・活動電位・シナプスなど神経科学の基本用語が説明できる。
3	興奮の伝導とシナプス伝達	伝導と伝達の違いが理解できる。主要な神経伝達物質の性質を説明できる。
4	脊髄と脳	脊髄の構造を図示して説明できる。脳神経の役割を分類できる。
5	脳神経と自律神経	末梢神経系の機能が説明できる。
6	運動系1(神経と筋収縮)	興奮収縮関連を説明できる。
7	運動系2(脊髄反射)	膝蓋腱反射のメカニズムと屈曲反射を説明できる。
8	運動系3(脳による運動制御)	大脳基底核・小脳のはたらきを説明できる。
9	これまでの復習(1)	これまでのキーワードを自分の言葉で説明できるか、理解度の確認ができる。
10	感覚系1(体性感覚)	触覚・温度感覚がどのように脳に送られ、脳で表現されているのか理解をする。
11	感覚系2(視覚)	光の受容機構・網膜視細胞のはたらき・視覚伝導路・視覚系反射の意義を説明できる。
12	感覚系3(聴覚・平衡覚)	音の受容機構・聴覚伝導路を説明できる。
13	感覚系4(味覚・嗅覚・痛覚)	味覚・嗅覚の受容機構・神経支配を説明できる。
14	脳の統合機能	覚醒時・睡眠時の脳波が説明できる。本能行動について説明できる。
15	これまでの復習(2)	これまでのキーワードを自分の言葉で説明できるか、理解度の確認ができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	木田 裕之		実務経験紹介	山口大学医学部にて生理学講義を13年間担当	

科目名	生理学Ⅲ					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室	
授業概要	筋①～⑥では、骨格筋の構造や特徴および不随意筋の特徴について学習する。運動に対する呼吸循環応答①～③では、体力の概要を学び、運動処方の基礎について学び高年次へつなげる。運動学習①～③では、学習の諸理論から運動における学習理論を学び、運動技能・練習・訓練などを理解する。体温調整①～③では熱の出納、体温調節の機序、体温の分布、体温の日内変動などについて学ぶ。									
一般目標	筋の構造、収縮メカニズム、収縮種類などを修得する。体力の概要を学び、運動処方の基礎を修得する。学習の諸理論から運動における学習理論を理解し、運動技能・練習・訓練の意味や方法を身につける。体温調整では体温調節の機序を修得する。									
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院) 基礎運動学(医歯薬出版株式会社)									

到達目標		
知識(認知領域) 講義で取り上げた内容について説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 積極的に授業に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	筋①(乾)	・骨格筋の構造及び血管について説明できる。
2	筋②(乾)	・骨格筋の微細構造、筋収縮のメカニズムについて説明できる。
3	筋③(乾)	・筋線維の種類と特性について説明できる。
4	筋④(乾)	・筋収縮の基礎的性質(例:短収縮と強縮)について説明できる。
5	筋⑤(乾)	・不随意筋(心筋、平滑筋)の収縮の特徴について説明できる。
6	筋⑥(乾)	・不随意筋(心筋、平滑筋)の収縮の特徴について説明できる。
7	運動に対する呼吸循環応答①(川崎)	・体力、身体運動のエネルギー代謝について説明できる。
8	運動に対する呼吸循環応答②(川崎)	・メディカルチェック、運動負荷試験(様式、実施上の注意)について説明できる。
9	運動に対する呼吸循環応答③(川崎)	・運動処方の組み方、実際に行う際の手順、要点を説明できる。 ・運動処方に関わる訓練の諸原理を説明できる。
10	運動学習①(東野)	・学習と記憶、学習の諸理論について説明できる。
11	運動学習②(東野)	・運動学習の諸理論、運動技能、練習と訓練について説明できる。
12	運動学習③(東野)	・熱の出納(熱産生と熱放散)について説明できる。 ・体温調節のメカニズムについて説明できる。
13	体温調整①(東野)	・熱の産生、喪失について説明できる。
14	体温調整②(東野)	・体温調節の機序が説明できる。
15	体温調整③(東野)	・運動が体温に与える影響について説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	乾 誠、澄川 泰弘、他		実務経験紹介	大学医学部教授として約22年間、基礎医学講座で教育、研究に従事(乾)。	

科目名	生理学実習					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	基礎医学実習室、治療室	
授業概要	ヒトを用いた生理学実習を行い、作業療法・理学療法に必要な各種生理的反応への理解を深める。									
一般目標	ヒトを用いた生理学実習を行い、得られた情報から人体の機能を評価する方法を習得する。									
テキスト 参考書等	系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学（医学書院）									

到達目標		
知識(認知領域) 各種生理的反応について説明することができる。		
技術(精神運動領域) 各種生理的反応を引き出すことができる。		
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	心電図① (小室、田中)	心電図について理解し、説明することができる。
2	心電図② (小室、田中)	心電図について理解し、説明することができる。
3	心電図③ (小室、田中)	心電図を測定する意義・目的・方法を説明し、データを分析できる。
4	心電図④ (小室、田中)	心電図を測定する意義・目的・方法を説明し、データを分析できる。
5	尿検査、血糖値検査① (岡野、山本)	尿検査、血糖値検査について理解し、説明することができる。
6	尿検査、血糖値検査② (岡野、山本)	尿検査、血糖値検査について理解し、説明することができる。
7	尿検査、血糖値検査③ (岡野、山本)	尿検査、血糖値検査を測定する意義・目的・方法を説明し、データを分析できる。
8	尿検査、血糖値検査④ (岡野、山本)	尿検査、血糖値検査を測定する意義・目的・方法を説明し、データを分析できる。
9	呼吸機能検査①(石丸)	呼吸のメカニズムを説明できる。
10	呼吸機能検査②(石丸)	呼吸機能検査の意義・目的・方法を説明し、実施できる。
11	呼吸機能検査③(石丸)	呼吸機能検査の概要について理解し、説明することができる。
12	呼吸機能検査④(石丸)	呼吸機能検査を実施し、その結果を読み取ることができる。
13	血圧、脈拍①(梅本)	血圧、脈拍について説明できる。
14	血圧、脈拍②(梅本)	血圧、脈拍の測定方法を説明し、実施できる。
15	血圧、脈拍③(梅本)	血圧、脈拍の変動について説明することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート	○	○		評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	()内はGPA点数
出席			○	欠格条件	
担当教員	石丸 拓也、梅本 早矢香、他		実務経験紹介	医療施設におけるリハビリテーション実務で患者の身体機能を評価した経験あり(藤井)	

科目名	リハビリテーション概論					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室	
授業概要	リハビリテーションの歴史、理念について学習する。障害モデルと生活機能モデルを身近な方を例に挙げながら整理し、リハビリテーション専門職とチームアプローチなどについて学習する。 リハビリテーションに関連する社会保障制度や法規について学習する。									
一般目標	リハビリテーションの理念と、リハビリテーション医療の特徴を理解する。障害モデルと生活機能モデルを理解する。 リハビリテーション専門職とチームアプローチについて理解する。 基本的な社会保障制度の概要について修得する。									
テキスト 参考書等	教科書 リハビリテーション概論のいろは(南江堂) 参考図書 ICF 国際生活機能分類 国際障害分類改訂版 (中央法規出版)									

到達目標		
知識(認知領域) ・リハビリテーションの理念、4つの分野を説明できる。 ・リハビリテーション医療の特徴を説明できる。 障害モデル図、生活機能モデル図を書ける。 ・チームアプローチとは何か説明できる。代表的なリハビリテーション専門職とその役割について説明できる。 ・各制度の概要について基本的な説明をすることができる。		
技術(精神運動領域) ・なし		
態度(情意領域) ・積極的に授業に参加することが出来る。		
回数	授業内容	授業目標
1	リハビリテーションの意味・歴史・定義等	リハビリテーションの本来の意味を説明するためのキーワードを言うことができる。 リハビリテーション理念に影響を与えた国際的な活動を4つ以上挙げ、簡単に説明することができる。
2	リハビリテーションの必要性①	リハビリテーションの4つの分野、リハビリテーション医学・医療の特徴、地域リハビリテーションの定義を言うことができる。
3	リハビリテーションの必要性②	障害モデル(ICIDH)図を書ける。 ICIDHの問題点があげられる。
4	リハビリテーションの必要性③	ICIDH→ICF改定のポイントをあげられる。 ICFモデル図(簡単版)を書ける。
5	リハビリテーションとチーム医療	チームアプローチとは何か説明できる。 チームアプローチの促進因子を挙げることが出来る。
6	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学に関連する人体の仕組みを説明できる。
7	リハビリテーション工学	リハビリテーション工学について説明できる。 自具、歩行補助具、車いす、コミュニケーション支援機器、ロボティクスについて説明できる。
8	栄養とリハビリテーション	五大栄養素を列挙し、それぞれの役割を説明できる。 消化や吸収について説明できる。
9	社会保障制度とは 社会福祉とは	社会保障とはなにか説明できる。 福祉とはなにか説明できる。
10	児童福祉、社会保険、公的扶助	児童福祉の概要を説明し、利用できるサービスを列挙することができる。 社会保険と公的扶助の概要を説明し、利用できるサービスを列挙することができる。
11	障害者福祉1	障害を取り巻く概念(ICF、バリアフリー、ユニバーサルデザインなど)を説明できる。
12	障害者福祉2	障害者総合支援法を中心に、障害者福祉の概要を説明できる。 障害者支援法・障害者手帳で利用できるサービスを列挙することができる。
13	医療保険制度	日本の医療制度の概要を説明できる。
14	介護保険制度	高齢化の現状、高齢者の現状について説明できる。 介護保険の概要を説明し、利用できるサービスを列挙することができる。 介護保険サービス以外の高齢者サービスを列挙できる。
15	地域包括ケアシステム まとめ	自助、互助、共助、公助について説明できる。 事例を通し、現在日本の社会保障制度下で利用できる制度やサービスを列挙できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	藤井 昭宏		実務経験紹介	理学療法士として10年間、急性期病院で勤務	

科目名	リハビリテーション医学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	リハビリテーション医学についての一般的な知識を総合的に学習する。 代表的な疾患について障害像を把握し、各疾患のリハビリテーションの基本について学習する。								
一般目標	リハビリテーション医学の概要について説明できる。 主要な対象疾患に関するOT、PTとして必要かつ基本的な評価と治療に関する知識を習得する。								
テキスト 参考書等	適宜資料を配布する。								

到達目標		
知識(認知領域) リハビリテーション医学についての一般的な知識について総合的に説明ができる。 代表的な疾患について障害像を把握し、各疾患のリハビリテーションの基本について説明することができる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に積極的に参加できる。 授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	リハビリテーション医学総論	リハビリテーション医学(定義・ADL・障害・チーム医療・ステージ・運動療法・物理療法・義肢装具・地域リハ・職業リハ・リスク管理・廃用症候群・生理学検査・画像検査・制度)全般について説明できる。
2	運動障害(障害各論)	運動麻痺・筋力低下・関節可動域制限・運動失調・姿勢歩行障害について説明できる。
3	内部障害(障害各論)	内部障害・呼吸器障害とその評価・循環器障害とその評価・代謝障害とその評価について説明できる。
4	高次脳機能障害(障害各論)	主な高次脳機能障害について説明できる。 摂食嚥下・言語機能障害について説明できる。
5	心理社会的障害(障害各論)、摂食嚥下障害、言語障害	心理的社会障害・うつ状態・易怒性について説明できる。
6	排泄障害・意識障害(障害各論)	排泄障害・意識障害について説明できる。
7	脳血管障害(疾患各論)	脳血管障害(脳出血・脳梗塞・くも膜下出血)とそのリハビリテーションについて説明できる。
8	脳外傷・低酸素脳症・脳腫瘍・水頭症(疾患各論)	脳外傷・低酸素脳症・脳腫瘍・水頭症とそのリハビリテーションについて説明できる。
9	脊髄損傷(疾患各論)	脊髄損傷とそのリハビリテーションについて説明できる。
10	腕神経叢疾患 神経・筋疾患(疾患各論)	腕神経叢疾患、神経筋疾患(PD・MS・MG・GBS・ALS)とそのリハビリテーションについて説明できる。
11	神経・筋疾患(疾患各論)	神経筋疾患(SCD・PM・DM・MD・MSA)とそのリハビリテーションについて説明できる。
12	骨・関節疾患(疾患各論)	骨・関節疾患とそのリハビリテーションについて説明できる。
13	呼吸器・循環器疾患(疾患各論)	呼吸器・循環器疾患(狭窄症・心筋梗塞・心不全・不整脈)とそのリハビリテーションについて説明できる。
14	精神疾患	精神疾患とそのリハビリテーションについて説明できる。
15	熱傷・がん、その他 まとめ	授業で学習してきたリハビリテーション医学全般について説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	角田 明由葉		実務経験紹介	病院勤務において、リハビリテーションに携わってきた経験あり。	